

週 報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会教会

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

(前週よりつづき)

フランチェスカ・アルバネーゼをして、それを可能にしているのは何かを、明らかにしているのが、10人と出会い、共生を綴った「世界が眠っているあいだに」であるように思えます。

「世界が眠っているあいだに」の冒頭は、2024年10月30日の、アルバネーゼの国連総会での発言からの抜粋で始まります。

「私は初めて本当に憤慨しています。憤慨しているのは無関心です。このジェノサイドの暴力が私たちの日常と意識に入り込んでしまっていて、他者がめっちゃくちゃにされているさなかにそのことでまったく心を動かされない人びとがこの場にいます。私の前にいる各国の高官は一致団結して、また一部は他よりも強力に、このすべてを止めることができるはずだというのに。ペンの一振りですごく十分でしょうか」「私は憤慨し失望しています」「ですから、私たちが本当に国際法を尊重するつもりでこの場にいれば、イスラエルと続けている外交、経済、政治、軍事、戦略の上での関係を見直してこの国に刑罰を科し、これが人類史で最後のジェノサイドとなるようにする他ありません」。

そしてはじまる「はじめに」は、この本が、パレスチナ・ガザのイスラエルによるジェノサイドに言及することになるとして、その事の「なぜ」について、どこに立って何をを目指すことになるのかを明らかにしています。

「…パレスチナの人びとにのしかかっているシステムは——イスラエルと他のすべての国々のあいだで承認され、エリートが常に罪に問われない状態を作り上げている結託関係は——私たち自身がその一部を成しているものなのだ。それは、私たち全員の生を左右する問題について、必ずしも私たちの声を聞き取って代弁してくれるわけでもないのに私たちに代って意思決定しているシステムだ。労働を非正規化、権利を特権

と変えるものだ。私たちを分断し、私たち全員をもっと脆弱で安全でない存在とってしまうものだ。連帯を体制転覆活動と捉え、共感（エンパシー）を精神的・社会的異常と見なすものだ」「翌日にはつながりをばらばらにほどこ、環境問題からパレスチナまで、非正規労働からジェンダー問題まで、正しい理想のために共に行動できる私たちの力を損おうとする陰險なメカニズムだ」「私は自分の仕事のおかげで、またパレスチナ問題に関する近年の研究のすべてのおかげで、自分たちが生きているシステムをもっとよく見つめ理解できるようになった。そしてそれを、愛といわれて直感されるものとは異なるありかたで、愛し続けることができるようになった」

ここで言われている「パレスチナ問題に関する研究すべてのおかげで、自分たちが生きているシステムをもっとよく見つめて理解できるようになった」が、この本の10人の人との出会い・共生の物語であることで、身近で読みやすく、「難しい」パレスチナ問題が自分のものとして解きほぐされていくように思えます、思えました。

それは、読者である読み手に起こる前に、著者であるアルバネーゼが自身に起こった事を起点として語られているからこそ、私（私たち）にとっての、パレスチナ・ガザの人たちとの共生への道につながるようにも読めるのです。

何よりも「軟弱者」などとは言っておれないのです。

たとえば「パレスチナ問題に関する近年の研究すべてのおかげで」で言われている、研究者の一人「アーロン…と知り合うことになった」、そのアーロン「…アメリカのマサチューセッツ大学アマースト校でユダヤ・近代史を教え、ホロコースト・ジェノサイド・歴史的記憶研究所の所長を務めたイタリア系イスラエル人大学教授」の出会いが、その人になります。

(次週につづく)